

平成30年度 学校評価（自己評価）

<p>本年度の 重点目標</p>	<p>『意志あるところに 道は開ける』 自己理解、目標設定、正しい努力 5段階評価 【5】達成できた 【4】おおむね達成できた 【3】達成度は並である 【2】達成度はやや低い 【1】達成度は低い</p>		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>総務部</p>	<p>防災教育の充実と 教員の多忙化解消 に向けた情報の共 有と業務の再検討 を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルの改訂 ・避難訓練の更なる工夫 ・帰宅困難生徒の対策 ・業務の再検討 ・各情報の共有と各業務の マニュアル作成による負担 の分散を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の帰宅方法及び、帰宅困難生徒の対応につい ては、スマートフォン等の取り扱いについて進路指導部と 協議予定である。 ・業務の見直しを行い、PTA役員・理事会を1回減ら し、保護者会中の授業参観を廃止した。 ・マニュアル作成と負担の分散については、少しずつで はあるが、着実に進んでいる。 評価【3】
<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・探究的に 学習に取り組む態 度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間に合わせて 研究授業を実施し、相互に 授業改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間に研究授業をバランス配置したことで、 参観率アップにつなげることができた。多くの教員が複 数回にわたり参観しており、その後の意見交換も含めて 研鑽を積み、授業改善に取り組んでいる。今後は、第3 回目の授業参観週間を実践的な取り組みの時期と位置づ けることで、より効果的なものとした。評価【3】
<p>生徒指導部</p>	<p>基本的な生活習慣の 確立</p> <p>いじめの未然防止 に係る取組の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な立番指導による 挨拶指導を実施。 ・学年と連携して段階的な 遅刻指導を実施。 ・規範意識を醸成するた め、普段から身だしなみ について声掛けをしていく。 ・学期に1回いじめアンケ ートを実施。 ・学年集会やHRでいじめ 防止の話を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の協力により、立番指導や遅刻指導を体系的に 実施することができた。指導が遅刻抑止につながらない 生徒もおり、指導の在り方が課題である。 ・身だしなみについて、全職員が共通理解のもと指導で きなかった。規則の見直しと周知を再考し、品位ある身 だしなみを徹底していきたい。 ・いじめアンケートについて、認知した事案に的確に対 処し、改善することができた。 評価【3】
<p>進路指導部</p>	<p>進路実現に必要な 確かな実力を身に 付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入試改革に関する情報を 収集し、多面的に分析して、 発信・共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部から講師を招き、研修会議を実施し、全教職員の 共通理解を図ることができた ・高大接続改革に関する研究会等に参加し、有効な情報 を収集、発信することができた。 ・進路指導について、かなりの意識の差があるので、普 通科の進学校としての体制を再構築する必要がある。 評価【3】
<p>特別活動部</p>	<p>生徒会行事や部活 動、委員会活動へ の生徒の積極的参 加を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事や委員会活 動、HR活動、部活動に主 体的かつ積極的に関わる姿 勢を促すとともに、生徒の 自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動部内での役割分担の変更や行事の見直しによ り、計画や遂行に余裕がなく、定着するまでに時間を要 すると思われる。 ・生徒会役員や生徒の自主的・積極的な活動により、生 徒会行事当日はスムーズに進行することができた。 ・生徒の自己肯定感を高めるには、当日の運営以上に、 事前の計画や準備に参加できる場面を設定することが重 要であると感じた。 評価【3】

項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健厚生部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自主性をもった健康生活をおくれること、主体性をもった環境美化活動に取り組めること。 開かれた相談室経営と教育相談システムの構築。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ほけんだより」などで情報を発信し、健康への関心を高めさせる。 日常では清掃用具の整備、委員によるトイレ点検などを行い、清掃週間では重点項目を示していく。 担任や学年主任との連携を密にする。相談室便りの発行。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ほけんだより」にて時期に応じた話題（熱中症、感染症予防など）の提供はでき、生徒の予防行動に関与できたようだ。 委員会での点検活動は計画どおりすすめられたが、主体性をもった清掃活動への取り組みができるためには全職員の地道な指導がまだまだ必要である。 多様化している生徒の問題を適切に対処できるべく情報交換と問題の共有の機会をうまく設定していく必要がある。 <p style="text-align: right;">評価【4】</p>
国際教養部	<ul style="list-style-type: none"> 異なる文化背景の物や人々と触れ合う場を提供し、異文化に対する関心を高めると共に、英語による総合的なコミュニケーション能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語集中合宿や異文化体験発表会のような本校独自行事や、留学生受け入れなどを通じて、異文化に積極的に親しみ知ろうとする態度や、英語でコミュニケーションを図ろうという姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語集中合宿や異文化体験発表会のような国際教養部主催の行事は無事に成功裏に終わり、参加した生徒達や発表した生徒達は大いに自信をつけられた。 本校への留学生たちも学校生活に慣れて、日本語がとて上達した。本校生徒達と仲良くなり、相互の異文化理解がとても深まった。 来年度の留学希望者がおらず、オーストラリア研修参加者も最近では最少となっている。海外留学への希望者を増やせるように情宣活動を更にしっかりさせていく必要がある。 <p style="text-align: right;">評価【4】</p>
1年学年会	本校生徒としての生活習慣の確立を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 集団規律を守らせるとともに、文武両道にしっかり取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度はじめより、担任を中心に粘り強く、規律を守れる生徒を育てる努力をし続けることができた。 部活動を通じて心技体を鍛えた生徒やボランティア活動に積極的に参加し、善意の心を育てる生徒が現れた。 学習については、それぞれの進路実現を達成させるため、面談を繰り返し、きめ細やかな学習指導・進路指導を心がけた。生徒の学習活動への意識を高める指導を実施した。 <p style="text-align: right;">評価【4】</p>
2年学年会	将来の進路実現を見据え、自ら考え、積極的に行動する姿勢を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行など学校行事や部活動（幹部として）などにおいて、自主的に考え、具体的に行動する場面を設定する。 学校生活のあらゆる場面を通じ、進路目標を具体的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が学校行事や部活動などで自ら考え積極的に行動し、中心的な役割を果たすことが出来た。 総合学習はもとより校外模試、夏休みの進路研究、夢ナビライブ、インターンシップ、そしてオープンキャンパスなどを通じ進路について具体的に自ら考えることができた。しかし、自ら設定した目標を実現するために具体的な行動に出ている生徒は少なく、次年度へ向け、最高学年として「進路実現へ向け自ら一歩踏み出す」という意識を高めていく必要がある。 <p style="text-align: right;">評価【3】</p>
3年学年会	進路目標実現に向けて、自己発信できるような体制を作らせる。	<ul style="list-style-type: none"> 十分な進路研究を支援し、具体的なアドバイスをする。また、学習時間の確保と適切な学習方法を指導し、各自の持てる力が発揮できるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任を中心に生徒面談を繰り返し、生徒個々の進路研究を十分に支援することができた。その支援のため、職員間で協力して情報収集に努めることもできた。 学習時間は2年次よりも伸びたが、生徒間でのばらつきがあった。 進路実現に向けて、粘り強く努力する姿勢を育てることは出来たが、自ら積極的に行動する姿勢を育てることが難しく、今後の課題である。 <p style="text-align: right;">評価【4】</p>
総合評価	<p>働き方改革や部活動が「イライラ」への対応、高大接続及び大学入学共通テスト対策、学習指導、危機管理対策など課題が山積みされている現状の中、各分掌各学年でそれぞれの重点目標の達成に向け、具体的な方策とその取り組みにより成果をあげている。</p> <p>ポートフォリオへの対応や英語外部検定対応等、更なる方策と取組が求められる。</p> <p style="text-align: right;">評価【3】</p>		